令和元年度がスタートしました。昨年度に引き続き、日頃の「雑感」を綴ってまいります。ご笑覧いただけましたら幸いです。

All for one, and one for all.　No.38

R1. 6. 1～2　「苫小牧で全道高Ｐ連」

北海道高等学校ＰＴＡ連合会胆振・日高大会が苫小牧を会場に開催され、大変お忙しい中、４名のＰＴＡ役員の皆様に参加していただきました。

全体講演では、元日本ハムの 白井 一幸氏を講師に迎え、「可能性を引き出すコミュニケーション」という趣旨でお話しされたとのことでした。「ミスを怒らない、原因を教えない、猛練習をしない」といった選手育成の在り方は、現代の教育にも通じることの多い気がします。

人を育てることの難しさと同時に、相手の気持ちを考え、良いところを引き出し、主体的な態度につなげるための新たな発想を持つことの大切も伝わってきます。

分科会は、テーマ毎にグループに分かれ、情報交換がなされたとのことでした。各学校の特色あるＰＴＡ活動が数多く紹介され、とても有意義な２日間であったようです。

このたび参加いただいた、副会長の林元様（２年）、監事の今野様（２年）、斉木様（１年）、会計の中原様（１年）、本当にお疲れ様でした！

All for one, and one for all.　No.39

＊エイリョウ・アラカルト　「校内研修」

教育改革が進む中、私たち教職員も時間の合間を縫って研鑽に努めることを心がけています。学習指導要領の改訂、高大接続改革、アクティブ・ラーニング、観点別学習状況の評価法など、未来に向けた教育の在り方を考え、最新の知識を身につけ、不断の改善に努めることは、私たちの使命でもあります。

この日は、高等学校教育を専門とする指導主事に講師をお願いし、先述の内容に加え、パフォーマンス、ルーブリック、ポートフォリオなど多様な評価法について理解を深めました。

多方面から生徒の頑張りを見い出し、それを個々の資質や能力の伸長に繋げていく内容は、今後の教科指導に大いに役立つものでした。

All for one, and one for all.　No.40

R1. 6. 6　「全道壮行会」

今年度は、陸上部、バスケット部、卓球部、剣道部、弓道部、テニス部、水泳同好会、空手（ここまで高体連）の５９名に放送局（高文連）１５名が加わり、総勢７４名が全道

大会に臨みます。

強豪がひしめく当支部にあって、全道への切符を手にした生徒諸君の弛まぬ努力には頭が下がる思いです。

全道では、同じ努力をしながらも涙を呑んだ仲間や、同様に悔しい思いをした他校の皆さんの分まで、支部代表として頑張ってきて欲しいものです。

All for one, and one for all.　No.41

R1. 6. 6　「南永山駅舎清掃」

日々お世話になっている地域への感謝の気持ちを伝えるめの取組の一つに、「南永山駅舎清掃」があります。生徒会や生活委員会が中心となり例年行っている生徒主体の活動で、定期考査明けのこの日は６０名近い生徒が集まりました。

晴天の中、通学路になっている南永山駅までのゴミ拾いと、駅舎の清掃活動を念入りに行ってきました。地域の方々が気落ち良く使用してくれることが何よりの喜びです。

生徒には、前回の花いっぱい運動と同様、自分たちの活動の場をきれいに保つ経験を通して、郷土愛をより育んでくれることを期待したいです。

All for one, and one for all.　No.42

R1. 6. 7　「永嶺ウォーク」

全年次が総出となる「永嶺ウォーク」、やや曇りがちの空模様ですが、みんな元気にそれぞれの目的地へと出発しました。この学校行事は、体力の向上や健康維持、自然との触れ合いによる豊かな情操の育成､美化活動を通した公共心の醸成などを目的としています。

１年次は「旭山動物園（約７．２km)」、２年次は大切アリーナに集合後、「カムイの杜公園（約４，４km)」、そして３年次は「神楽岡公園（約６，４km)」へと向かいます。

２・３年次は炊事をも兼ねており、生徒と教師、また生徒間の活発なコミュニケーションの機会ともなる大切な行事の一つです。

All for one, and one for all.　No.43

＊エイリョウ・アラカルト　「下宿訪問」

考査明けに、生徒指導部が中心となり下宿訪問を行いました。現在３０名ほどの生徒が

親元を離れ一人暮らしをしています。日々お世話になっている大家さんと連携を図りながら、高校生活を送る上での心配ごとを未然に解決し、子どもたちに有意義な３年間を送ってもらいたいとの願いからです。

高校生とは言え、一人暮らしには様々な不安が付きものですが、温かな大家さんの元で皆元気に過ごしているとの報告を受け、本当に有り難く思っています。一般家庭で過ごすことから比べると、自分でやるべきことは多いかもしれませんが、その貴重な経験を成長の糧とし、学業や部活動にと頑張ってくれることを期待しています！

All for one, and one for all.　No.44

R1. 6. 8　「音楽大行進」

今年も音楽パレードの季節がやってきました。小さな子どもから大人に至るまで、音楽を愛する沢山の方々の演奏に､街頭を埋め尽くさんばかりの多くの市民が酔いしれました。

音楽は老若男女を問わず、誰にでも受け入れられるお馴染みの芸術ですが、特に行進曲は聴衆の胸を弾ませる躍動感に満ち、大いに元気づけられます。

そんな中、本校吹奏楽部も迫力満点のソーラン節で沿道を沸かせてくれました。

行進後は雨模様となり、一部アフターコンサートが中止となるアクシデントもあったようですが、今日の音楽大行進に数え切れない人たちが笑顔になり、勇気づけられたことだけは確かです。

All for one, and one for all.　No.45

R1. 6.10　「教育実習」

５名の実習生の皆さんをお迎えしました。私も経験がありますが、教育実習は人としての信条を構築していく上で大きなきっかけとなる活動です。楽しかった事、心配して苦しんだ事、とにかく考えぬいた事、思うようにいかなかった事、助けられた事、喜んでくれた事等々、実習中のあらゆる事象や感情が、その後の人間形成に大きく影響します。

教育には「普遍と流行」という表現がありますが、流行は、その時代や社会によって変化していくものです。新たな時代を迎えようとしている現代にあって、教育も今大きく変貌しようとしてます。

未来を切り拓くために必要な力を育むために、「どのような教育が必要なのか、教師とはどうあるべきか」を考えることは、実習生のみならず、私たちにとっても大きな課題となっています。

この度の教育実習生は、旧東栄高校ＯＢの渡部　陸先生（公民）、齊藤 慎一先生（公

民）と、旧凌雲高校ＯＢの吉川 瑞貴先生（音楽）、木村 このか先生（美術）、谷口 魁音先生（保体）の５名です。少しの時間お話しする機会がありましたが、皆さん真面目で、とても頼りがいのある好印象の先生方ばかりです。２週間から４週間と実習期間は様々ですが、実習生にとっても、生徒にとっても有意義な期間となることを願っています。

All for one, and one for all. №46

R1. 6.13 「家庭クラブ」

家庭クラブ連盟の支部総会・研究実践発表会が本校を会場に開催され、３校約６０名の生徒が様々な研修を通して、互いの活動の重要性を認識し合いました。

研修会では、各校の活動報告に続いて、ソーシャルスキルトレーニングによる生徒交流、アイヌ刺繍のボタン作りと、顧問の先生方の助言を受けながら終始和やかな雰囲気で親交を深め合いました。

生徒主体の取組を通して、日常生活に密着した斬新な発想が生まれていくのが家庭クラブの特徴でもあります。今日の研修成果を今後の活動のレベルアップに繋げてくれることを期待しています。

All for one, and one for all. №47

＊エイリョウ・アラカルト 「授業研究」

公開授業週間が１７日から１週間の日程で始まりました。新学習指導要領や大学入試共通テストを念頭に、互いの授業を見学し合い、新たな発見や気づきを意見交換することで、授業改善を図ることが目的です。

授業参観そのものはいつでも可能ですが、本校ではあえて「公開授業週間」を定期的に設け、自分の教科以外の授業も気軽に見学できるように工夫しています。

見学後は、「授業参観シート」に特に良かった点や取り入れるべき効果的な工夫などについて、見学者が気づいたことを自由に記載し、今後の授業の質の向上に繋げていきます。

アクティブ・ラーニング、観点別評価、少人数指導、ＴＴなど、様々な角度から授業研究を行い、教育改革の中で最も効果的な授業の在り方を日々模索しています。

All for one, and one for all. №48

R1. 6.18 「異校種間交流」

毎年、市内や近隣の特別支援学校と交流をさせていただき、両校生徒が心を通い合わせ、互いの思いや考えを尊重し合う教育活動を続けています。

この度は東川養護学校を訪問し、様々な交流を通して親交を深め合ってきました。全体の挨拶や自己紹介に続いて、班に分かれての共同作業。談笑をしながら和気藹々と作業を

する中で互いの心がより深く通い合っていきます。生徒会交流会では、互いの学校の生徒会活動報告や、両校生徒が事前に考えてきたミニゲームを楽しみながら、有意義な時間を過ごしました。

秋には、旭川養護学校の皆さんとの交流会も予定しています。それぞれの学校の生徒の皆さんが心を通い合わせ、互いに豊かな人間性を育む貴重な機会となっています。

All for one, and one for all.　№49

R1. 6.20　「高文連音楽発表会」

第７２回高文連上川支部音楽発表大会が市民文化会館で開催され、本校が当番校を務めさせていただきました。運営には文化部所属の生徒が多数手伝いに参加し、手際よく業務をこなし大会を大いに盛り上げてくれました。

各校による「合唱の美しいハーモニー、箏の優雅な調べ、そして吹奏楽の躍動感溢れるリズム」と、音楽の奥深さを改めて実感する素晴らしい発表大会でありました。

本校は、吹奏楽コンクール部門で「トリトン・エムファシス」を演奏し、見事「最優秀賞」の栄誉に輝きました。全道大会では、音楽を愛する同支部の皆さんの思いを胸に、代表として悔いの残らない演奏をしてくれることを期待しています。

All for one, and one for all.　№50

R1. 6.20　「第１回学校評議員会」

今年度最初の学校評議員会を行いました。学校の活性化に向けた貴重なご意見は、その都度教育活動に反映するように努めています。

学校評議員の構成は、昨年度から引き続きお引き受けくださった方ばかりで、学校事情もよくご理解いただいていることから、この度も忌憚のない貴重なアドバイスを数多くいただきました。

「地域と連携した教育活動の在り方」、「働き方改革推進の視点」、「ＩＣＴ教育や学校評価の在り方」など教育課題の具体的改善策などについても言及いただきました。

それぞれのお立場から豊富なご経験に基づいたお話だけに、とても重みがあります。お忙しい時間帯に、またお疲れの所をご来校いただき、心より感謝申し上げます。

All for one, and one for all.　No.51

R1. 6.21　「フレッシュコンサートwith実習生」

お昼休みに吹奏楽局が生徒ホールで教育実習生とコラボ、生徒を大いに沸かせました。今年の教育実習生は５名でしたが、内１名は２週間で実習を終えるため、今日が最終日となります。そこで、このコンサートを企画してくれました。音楽担当の実習生はトロンボーンで参加、ソロでミュージカル「レ・ミゼラブル」を披露し、聴衆を魅了しました。

旧凌雲高校と旧東栄高校の卒業生が一緒に実習に励み、日々の生活を共にしている姿はとても微笑ましいものです。同時に、本校が両校の伝統を引き継いでいることを改めて実感する瞬間でもあります。

局員の皆さんは、音楽発表大会を終えたばかりで疲れも溜まっていたことと思いますが、皆笑顔で実習生に素晴らしい贈り物をしてくれました。

All for one, and one for all.　No.52

＊エイリョウ・アラカルト　「２年連続全国大会へ！」

高文連全道高等学校放送発表大会兼ＮＨＫ全国高校放送コンテストが帯広市で開催され、本校放送局が見事全国大会の切符を手にしました。今回は「テレビドキュメント部門」での受賞となりました。

タイトルは「落ちルンです」。いったい何のことと、冒頭から視聴者の興味をひきます。実はこの作品、日常使っている学習机に着目したドキュメンタリーです。「どうしてこのサイズになったのか？」、「現状に適したサイズといえるのか？」、「このサイズでなければいけないのか？」など、教師や一般の方、中学生などに体験してもらいながら、机から物が落ちる実態を検証していきます。

特に机を外に持ち出してのインタビューや、物が落ちる状況に合わせた生徒同士のやりとりなど、発想もユニークながら、作品の構成もどこかほのぼのとした雰囲気を醸し出しており、最後の最後まで見入ってしまう素晴らしい出来映えです。

今年度は局員数も増え、ますます力をつけてきた放送局！今後がとても楽しみです。